

## ⑥ビッグデータを活用した人流の調査 と、その結果を基に社会実験計画の作成

---

# 目次

1. はじめに	2
2. 進め方について	3
3. ささしまライブを取り巻く交通の現状	8
1. 鉄道駅	8
2. 道路網	9
3. 名古屋市総合計画 2028	11
4. ささしまライブと大須エリアの交通流動の分析	13
1. 目的	13
2. 分析内容	13
3. 分析結果	13
5. ささしまライブ来街者の特性分析	15
1. 目的	15
2. 分析内容	15
3. 分析結果	16
4. 考察	17
6. ささしままち協主催イベント来場者の特性分析	18
1. 目的	18
2. 分析内容	18
3. 分析結果	18
4. 考察	29
7. 今後の調査の方向性	30
1. まとめ	30
2. 名駅南との連携アイデア	31
8. まちづくりビジョンに向けて	32
1. ささしまウエルカムバスの活用促進	32
2. あおなみ線の活用促進	32
3. 水辺との連携	33

# 1. はじめに

●調査は以下の内容を進めていく。

- ①データ収集
- ②データ分析
- ③まちづくりへの経済効果等
- ④報告書の作成
- ⑤社会実験に向けてフィードバック
- ⑥実施計画案の作成

調査結果は、シンポジウムでの発表と、ささしまライブまちづくりビジョンの基本データとして活用していく。

●ささしまライブまちづくりビジョン

①「ささしまライブ」の価値とその土地利用位置づけの定義

観光資源としての活用：コンテンツを観光資源として活用

インフラ課題：ウェルカムバス、水上交通、あおなみ線の活用策

②住民参加の取り組みの方向（企業が参加しやすくなるまちづくり）

アンケートとインタビュー：ささしまライブ内企業のインセンティブ

③エリアの価値

不動産価値、商業的価値、観光的価値、アカデミック

●進め方・スケジュール

10月

11月 - 12月

1月 - 2月

## 1. 現状分析 2. データ収集

- データの種類の特定**: 必要なデータをリストアップ
- (例：交通量データ、事故データ、公共交通利用データ)。
- データソースの確認**: データを収集するソースを確認し、信頼性の高いデータを集めます（例：市の交通局、統計局、GPSデータ、交通センサーなど）。

## 3. データ分析

**時系列分析**: 時間の経過に伴う交通パターンの変化を分析します。これにより、ピーク時の交通流量や、季節ごとの変動を理解します。

**地図上での可視化**：

分析結果を地図上に可視化し、どの地域でどのような人流・交通パターンが発生しているかを把握する。

## 4. まちづくりへの経済効果への期待

- 商業収入の増加:
- 観光客数の増加:

## ①の結果を用いて

1. 「ささしまライブ」の価値とその土地利用位置づけ
2. 住民参加の取り組みの方向
3. エリアの価値の向上



ささしまライブ  
まちづくりビジョンの素案

シンポジウムにて発表

## 2. 進め方について

### 1. 手順 データ収集

データソースの特定：必要なデータの種類と収集方法を決定。

携帯電話の位置情報データ：位置情報データを活用して人の移動パターンを把握。

SNS やアプリのデータ：ソーシャルメディアやモバイルアプリの利用データから人々の行動や移動傾向を分析した。

#### →調査元

##### ・定性データ

中京都市圏パーソントリップ調査 中部整備局

##### ・ビッグデータ

○名古屋市 OD 調査

○GPS 位置情報データ（株式会社ナビタイムジャパン提供）

・スマートフォン用の訪日外国人向け観光案内アプリ「NAVITIME for Travel Japan」

利用者の移動データ

・国籍はアプリインストール時のアンケートにより把握

○SNS 投稿解析データ（株式会社ナイトレイ提供）

・Twitter 及び Twitter に紐づけて投稿された Instagram 等のデータのうち、位置情報が付与されているもの

・国籍はアカウントのプロフィールに設定された言語、投稿の緯度経度、投稿の言語から推定

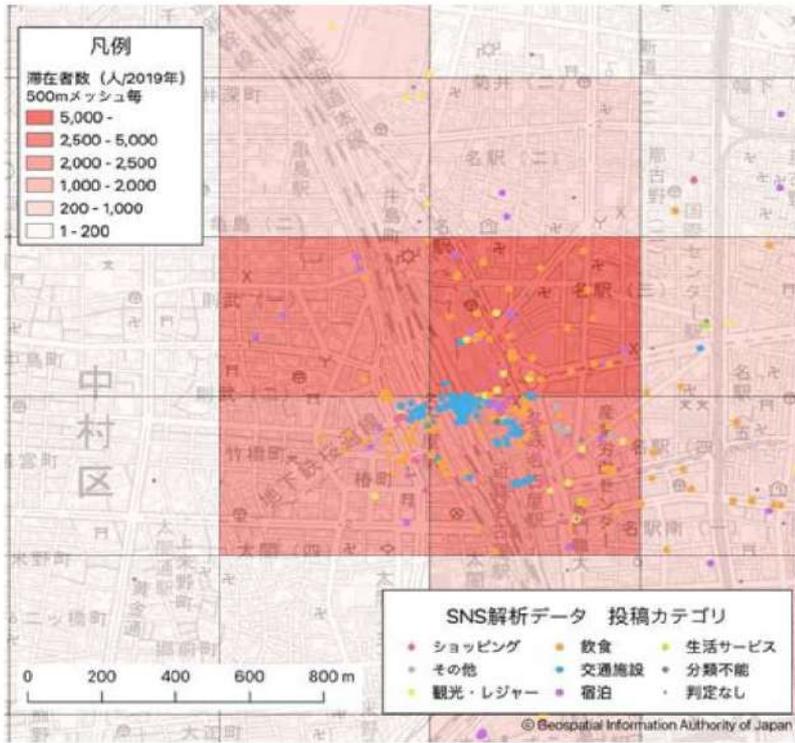
##### ・関連データ

RESAS 地域経済分析システム

#### →調査方法

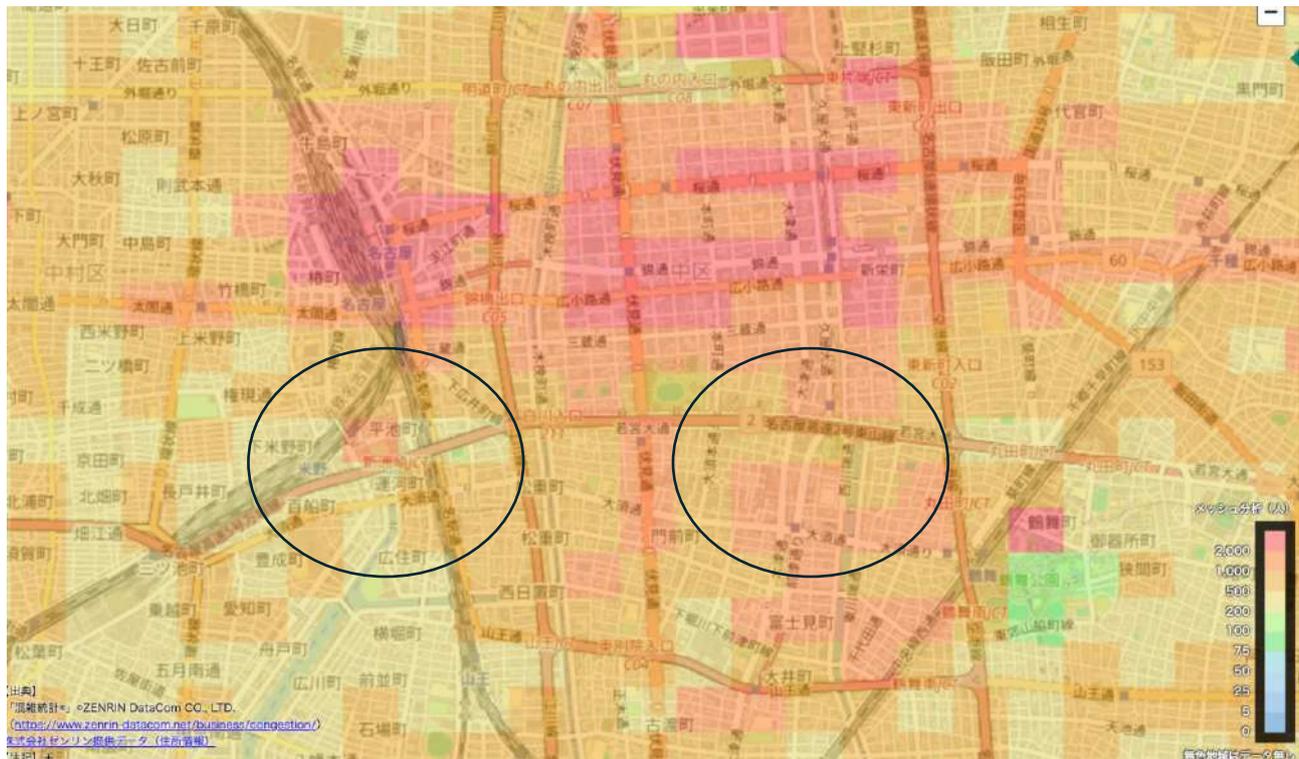
定性データ・ビッグデータ（GPS 位置情報データ、SNS 投稿解析データ、クレジットカード決済データ）を活用して名古屋駅・ささしまライブ24・大須の人流・行動実態を把握

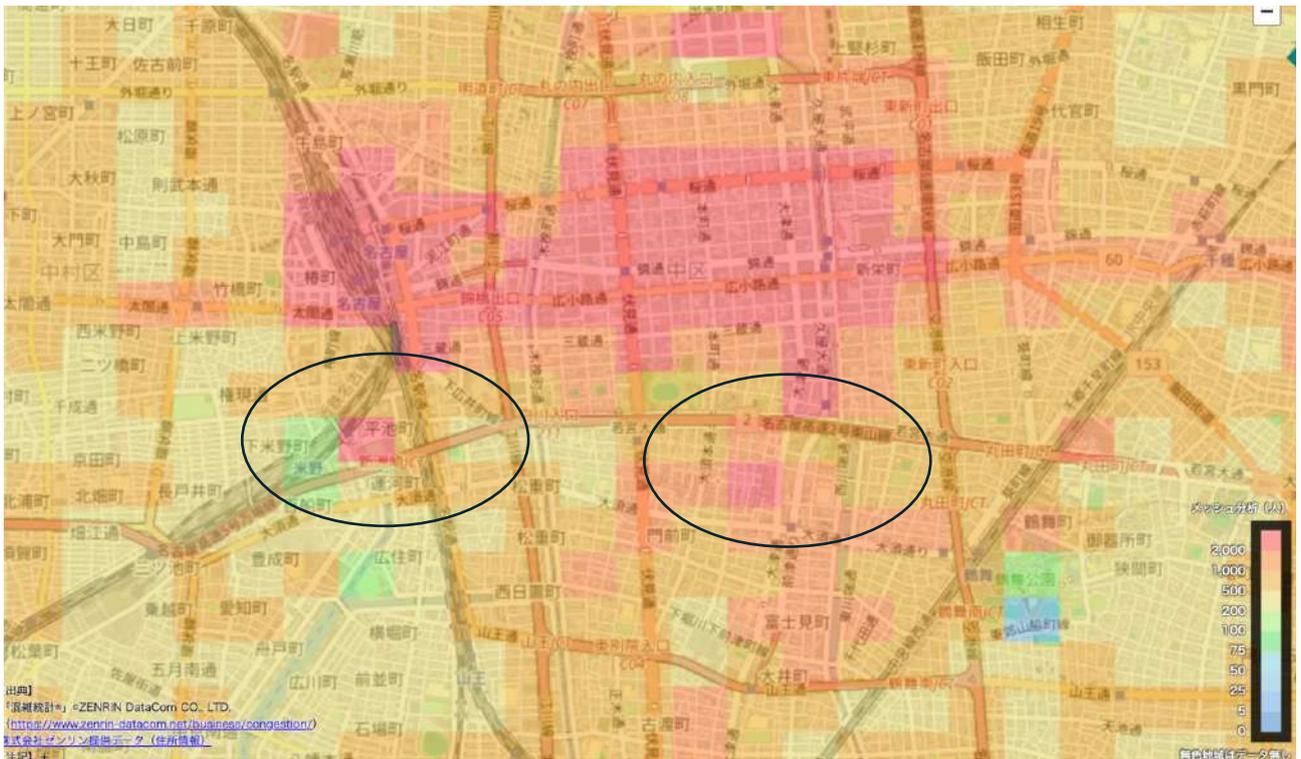




<人口移動メッシュ> 名古屋、ささしま、大須  
各地点の

2023年11月平日：通勤時間の人口メッシュ 午前8時



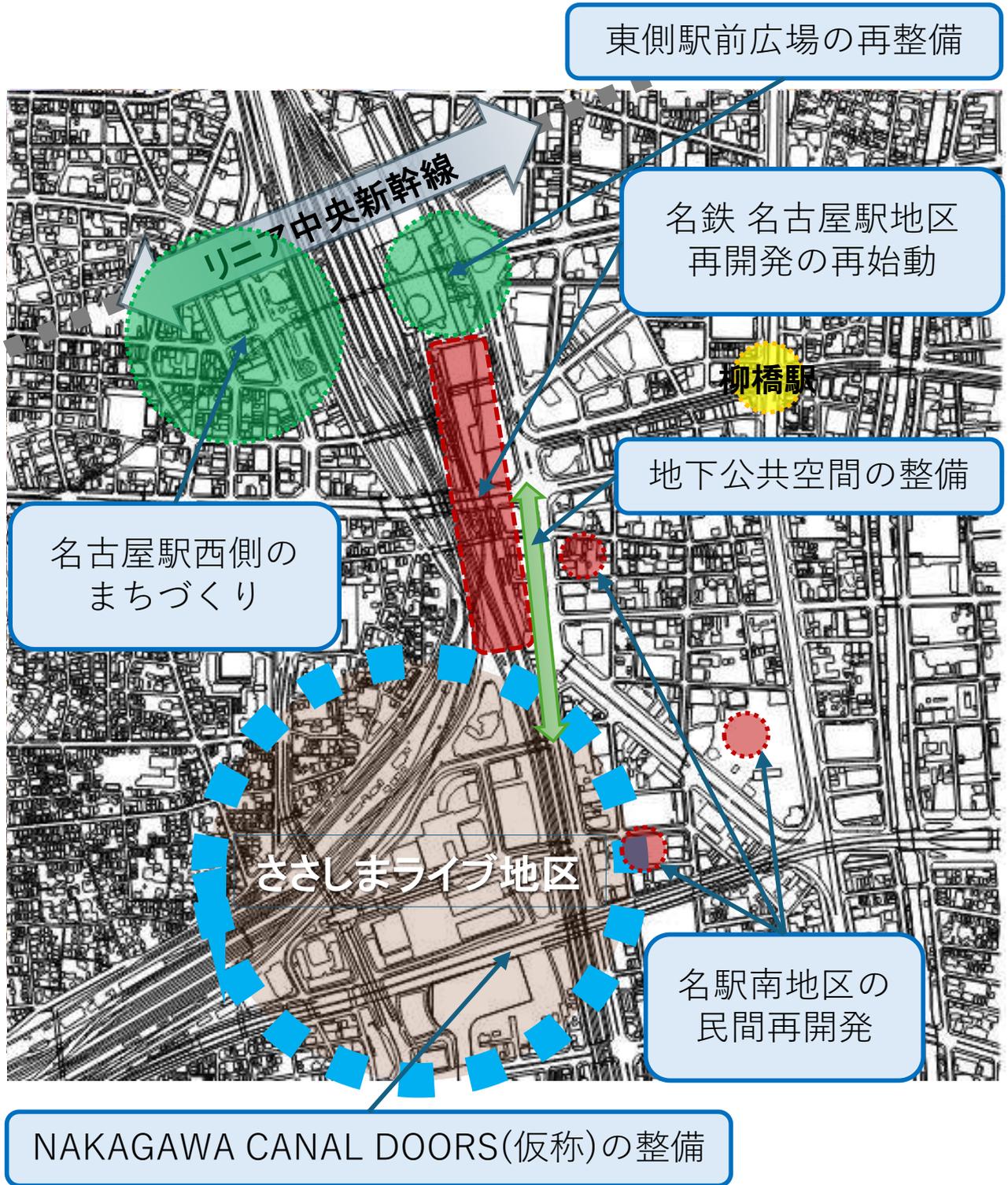


→分析の方向性

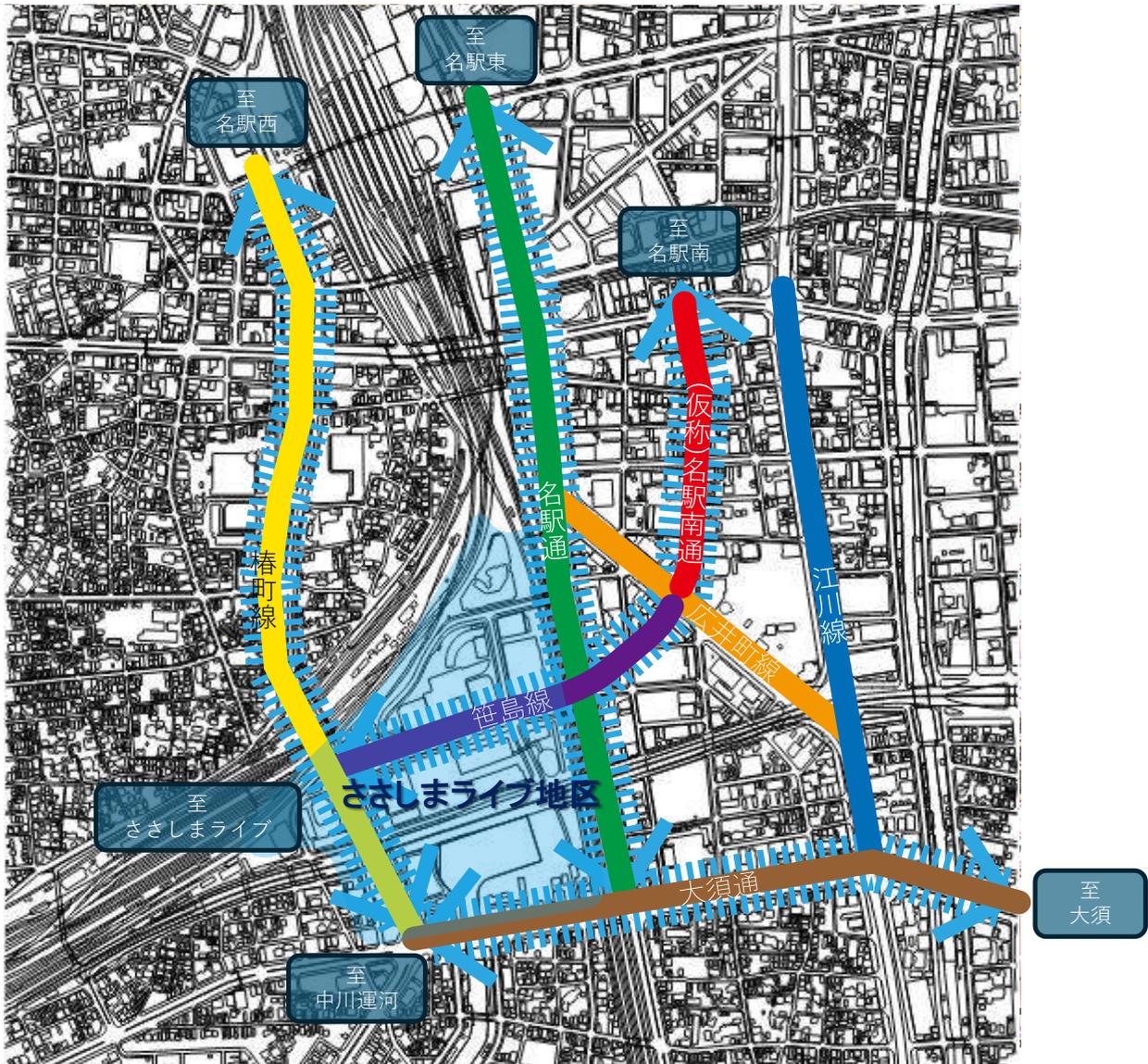
ささしまライブ24の機着としての可能性、大須からの来訪者の増加見込み等



→ささしまライブ地区の周辺整備



→ささしまライブ地区の発展動線



### 3. ささしまライブを取り巻く交通の現状

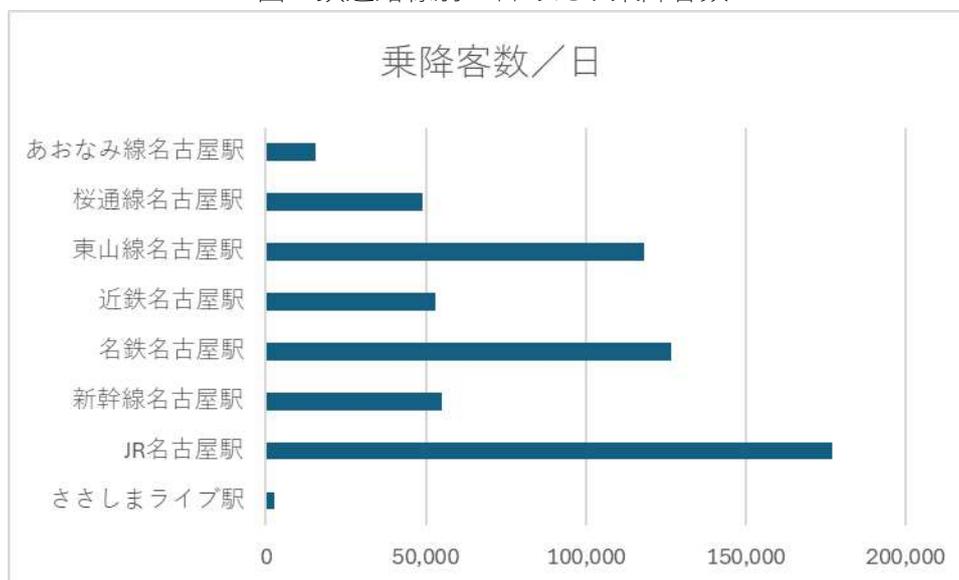
#### 1. 鉄道駅

各鉄道路線の名古屋駅及びささしまライブ駅における令和4年の年間乗降客数は、名古屋市統計年鑑によると次のとおりである。

名駅エリア	— JR名古屋駅 (64,693,736 人) 名鉄名古屋駅 (46,234,174 人) 近鉄名古屋駅 (19,305,305 人) 東山線名古屋駅 (43,110,306 人) 桜通線名古屋駅 (17,873,875 人) あおなみ線名古屋駅 (5,692,321 人)
ささしまライブ	— ささしまライブ駅 (902,860 人)

上記より算出した1日あたりの乗降客数及び新幹線名古屋駅の1日あたりの乗降客数(55,000人/JR東海 ファクトシート 2024)を示したのが以下の図である。JR在来線の乗降客数が最も多く、次いで名鉄線、地下鉄東山線の順である。

図 鉄道路線別1日あたり乗降客数



また、令和4年におけるあおなみ線の駅別乗降客数は以下の表のとおりである。(国土数値情報(駅別乗降客数データ))名古屋駅が全体の4割以上を占め、次いで河北駅、金城ふ頭駅となっており、ささしまライブ駅の順位は第4位である。

この駅別乗降客数より名古屋駅とささしまライブ駅間の乗降客数を推計すると、約3,970人になると想定される。

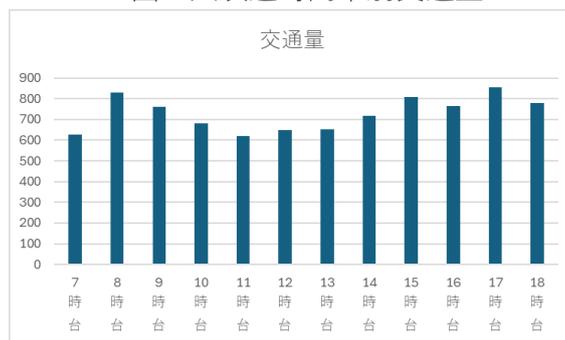
表 あおなみ線駅別乗降客数（人／日）

	駅名	乗降客数	比率
1	名古屋	30,800	42.7%
2	ささしまライブ	5,300	7.4%
3	小本	2,500	3.5%
4	荒子	4,100	5.7%
5	南荒子	2,700	3.7%
6	中島	5,200	7.2%
7	港北	5,800	8.0%
8	荒子川公園	3,900	5.4%
9	稲永	4,800	6.7%
10	野跡	1,600	2.2%
11	金城ふ頭	5,400	7.5%
	合計	72,100	100.0%

## 2. 道路網

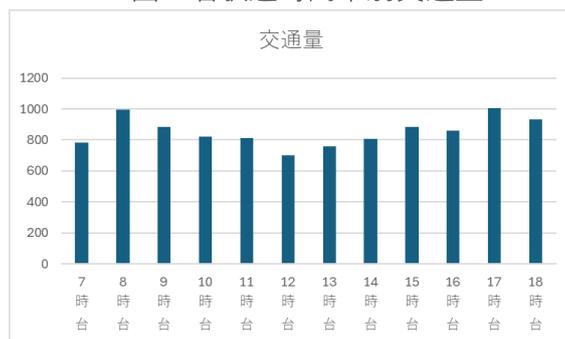
- a) 大須通（名古屋市道愛知名駅南線） — ささしまライブ南側・東西方向  
 車道幅員 20.25m・6車線 令和3年度 25,402 台/12h（平成27年度比 0.91）  
 大型車混入率 8.2%，混雑度 0.87，ピーク率 9.4%（17時台）  
 歩行者 261 人/12h・自転車 723 台/12h・二輪車 380 台/12h

図 大須通時間帯別交通量



- b) 名駅通（名古屋市道山王線） — ささしまライブ東側・南北方向  
 車道幅員 21m・6車線 令和3年度 10,236 台/12h（平成27年度比 0.74）  
 大型車混入率 11.9%，混雑度 0.42，ピーク率 9.8%（17時台）  
 歩行者 1,136 人/12h・自転車 1,072 台/12h・二輪車 209 台/12h

図 名駅通時間帯別交通量



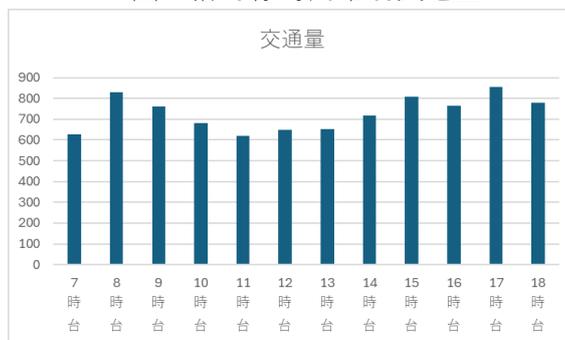
c) 椿町線 (名古屋市道椿町線) — ささしまライブ西側・南北方向

車道幅員 21m・6車線 令和3年度 8,743 台/12h

大型車混入率 8.3%, 混雑度 0.24, ピーク率 9.8% (17時台)

歩行者 12,360 人/12h・自転車 959 台/12h・二輪車 168 台/12h

図 椿町線時間帯別交通量



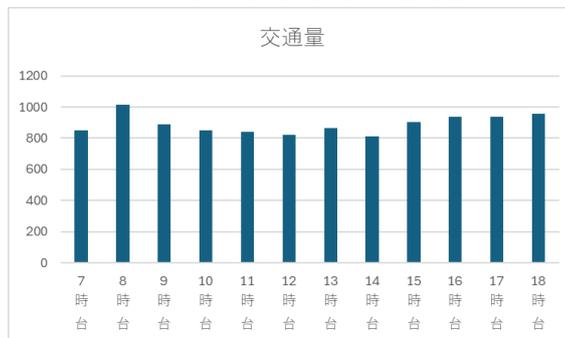
d) 明石通線 (名古屋市道荒子町線) — ささしまライブ西側・南北方向

車道幅員 19.25m・6車線 令和3年度 10,670 台/12h (平成27年度比 1.04)

大型車混入率 9.1%, 混雑度 0.49, ピーク率 9.5% (8時台)

歩行者 252 人/12h・自転車 651 台/12h・二輪車 183 台/12h

図 明石通線時間帯別交通量



ささしまライブは6車線を有する広幅員の幹線道路に囲まれており、大須通の交通量が約25千台/12hと最も多く、残る3路線は1万台程度である。なお、大須通と名駅通は平成27年度より

も交通量が低下している。大須通の混雑度は0.87と他の3路線よりも高いものの1.0を上回る状況にはない。ピーク時間帯は明石通線を除き17時台となっているが、8時台も同様の交通量となっている。朝の通勤時間帯と夕方の帰宅ラッシュの時間帯に交通集中が生じていると考えられる。

### 3. 名古屋市総合計画 2028

2024年に策定された「名古屋市総合計画 2028」は、リニア中央新幹線の開業や高齢者人口がピークを迎える時期を念頭に置き、令和22年頃を見据えた将来の街の姿を描いた2028年度までの計画である。この中で、ささしまライブに関連すると考えられる項目として以下のものがあげられる。

- ・リニア中央新幹線の全線開業により、世界最大の人口を有する巨大交流圏が形成され、名古屋は中心都市となる

⇒（基本方針）リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する世界都市

**【戦略5】** 独自の魅力で世界から多様な人が集い交流する、環境と経済の好循環で成長する都市をつくります

(1) スマートで居心地が良く、交流を呼び込む都市機能の充実

① 都市機能を支える基盤・ネットワークの強化

- ・名古屋駅ターミナル機能の強化
- ・リニア駅周辺の面的整備

② 先進技術の活用による快適な移動環境の実現

- ・新たな路面公共交通システム（SRT）の整備

③ ウォーカブルなまちづくり

- ・居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちなかの形成
- ・中川運河の再生

### 4. 道路整備計画

リニア中央新幹線の名古屋駅開業に向けて進められている道路整備のうち、ささしまライブに関連すると考えられるものとして以下のものがある。

(1) 椿町線・笹島線の整備

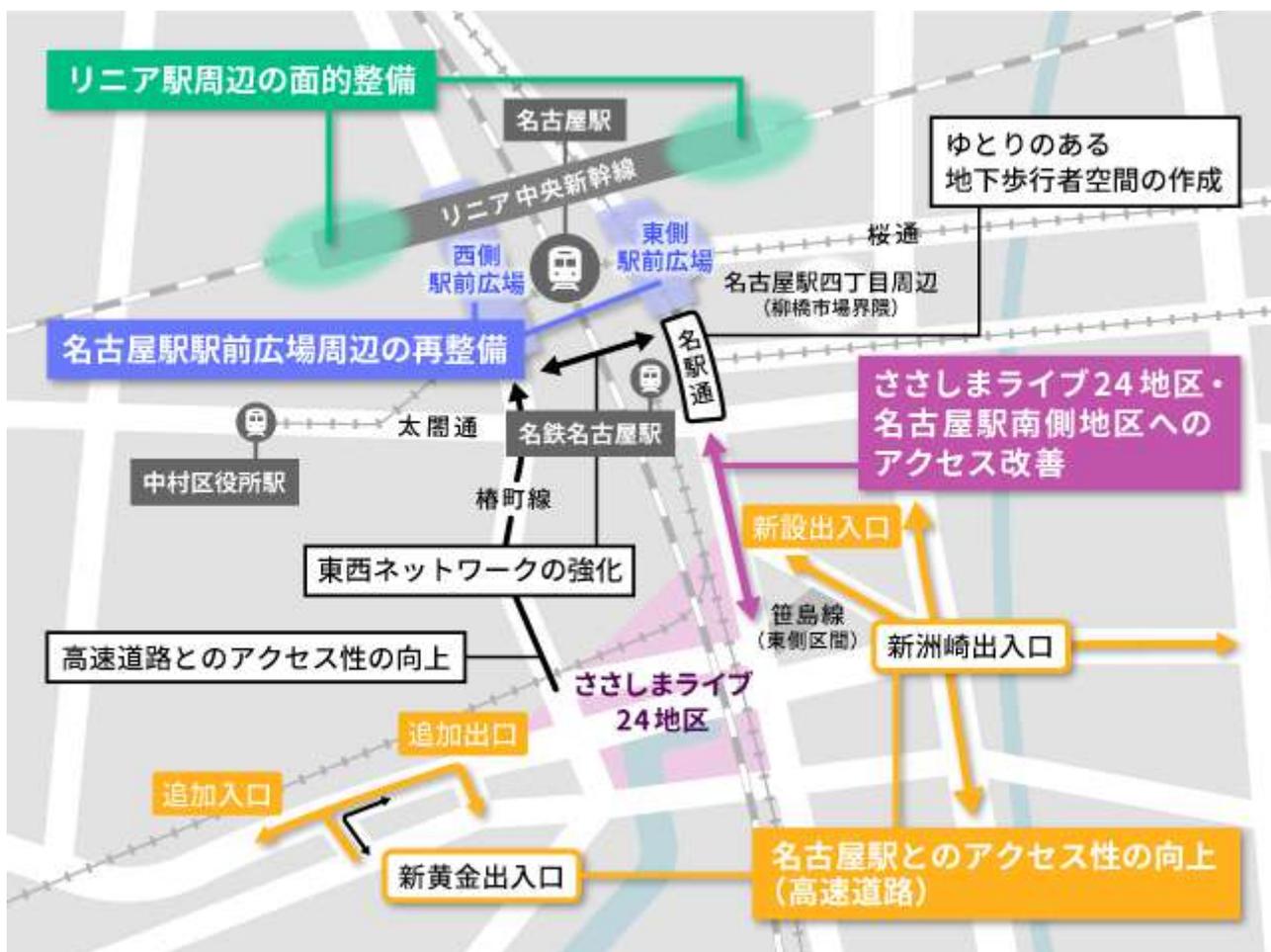
- ・名古屋高速道路黄金出入口付近フルIC及び椿町線の改善による駅西側とのアクセス強化
- ・新須崎JCT出入口設置による駅東方面とのアクセス向上
- ・笹島線（東側区間）の整備により名駅通に集中する交通の分散を図る

(2) 名古屋駅南・ささしま地下道路の整備

- ・名駅通の歩行者空間（西側歩道）の拡充、駅へのアクセス性の改善
- ・民間再開発にあわせたゆとりある地下歩行者空間の形成

名古屋高速道路の都心アクセス事業の完成に伴い、名駅線と椿町線の自動車交通量は増加すると考えられる。一方、両線はささしまライブにとって名古屋駅エリアと結ぶ重要なアクセス路線であることから、名駅通の西側歩道の拡幅ならびに地下歩行空間の整備が重要であると考えられる。

図 名古屋駅周辺まちづくり構想



出典： <https://www.athome.co.jp/town-library/article/122794/>

## 4. ささしまライブと大須エリアの交通流動の分析

### 1. 目的

現状における、ささしまライブと大須エリアの交通流動の実態を把握する。それにより、必要な交通支援策等を検討するための資料とする。

### 2. 分析内容

「全国うごき統計 見える化マップ」を用いて、ささしまライブと大須エリアの交通トリップを集計する。

### 3. 分析結果

全国うごき統計では、15分以上の滞在は滞在地と定義（滞在地間の流動を集計している）

#### a) ささしまライブ(名古屋市中村区)

- 移動者の交通手段（合計）  
在来線 33%，一般道等 56%
- 移動者の交通手段（居住者）  
在来線 12%，一般道等 85%
- 移動者の交通手段（来訪者）  
在来線 34%，一般道等 54%
- 直前の移動元  
中村区 20%，中川区 13%，中区 8%
- 居住地  
中川区 16%，中村区 8%，港区 5%

#### ➤ ささしまライブのトリップ

- ✓ 来訪者においても思いのほか一般道等の利用が多い。徒歩も含むか？
- ✓ 移動者の大半は来訪者と思われる（合計の比率とほぼ同じ）
- ✓ 中村区からの移動が20%と最も多い。やはり名駅からの移動だろうか？
- ✓ 中区からの移動が8%占めているが、このうち大須からはどれだけか？
- ✓ 居住地は中村区よりも中川区が多い。ささしまに対して西及び南からアクセス？交通手段は？

#### b) 大須エリア(名古屋市中区)

- 移動者の交通手段（合計）  
在来線 9%，一般道等 88%
- 移動者の交通手段（居住者）  
在来線 3%，一般道等 96%

- 移動者の交通手段（来訪者）  
在来線 11%，一般道等 86%
- 直前の移動元  
中区 60%，中村区 6%，東区 3%
- 居住地  
中区 23%，中川区 6%，昭和区 5%
- 大須エリアのトリップ
  - ✓ 一般道等の利用が多く徒歩利用と思われる。
  - ✓ 移動者の大半は来訪者と思われる（合計の比率とほぼ同じ）
  - ✓ 中区からの移動が 60%を占めている。栄エリアとの移動ではないか？
  - ✓ 中村区からの移動が 6%占めているが、このうちささしまからはどれだけか？
  - ✓ 居住地は中区が多い。地元住民による徒歩移動が主体か？

## 5. ささしまライブ来街者の特性分析

### 1. 目的

Location Analyzer (KDDI)を用いて、ささしまライブへの来街者は、

- どのような目的で（何を求めて）
- どのような人が（性別・年代・職業）
- いつ（曜日・時間帯） ささしまライブに来て、
- どれくらいの時間滞在するのか？ を分析する。

その結果を分析して、大須エリアとの人流拡大の方向性を検討する。

Location Analyzer では、次のような項目の分析が可能である。

- 日別・月別・月平均・平日平均・休日平均
- 125mメッシュならびに施設別  
中京テレビ、映画館、ホテル等の主要な施設別にエリアを設定
- 時間帯別・性年代別の滞在人数  
訪問日数および滞在時間を設定  
訪問者数を居住地別に集計

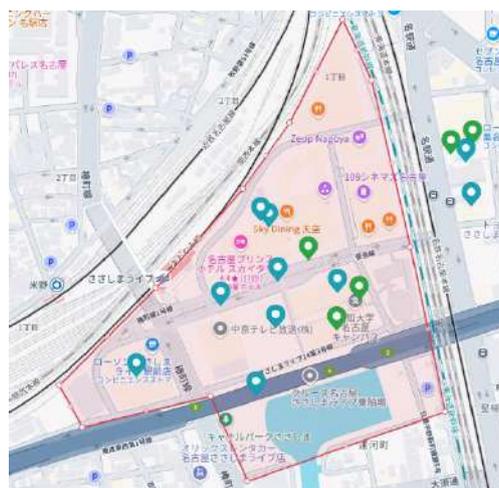
### 2. 分析内容

Location Analyzer を用いて、ささしまライブと大須エリアの間の人動きを分析する。

具体的には、図に示すささしまライブ全域（駅舎・堀止緑地を含む）を対象施設として、国内居住者を対象とした来訪者属性を分析する。分析項目は以下のとおりである。

- ・ 商圈（居住地）を大須二丁目・三丁目と設定
- ・ 使用データは2024年10月1日から10月31日の間
- ・ 平日／1日当たり平均および祝休日／1日当たり平均
  - ・ 上記の居住者、勤務者、来街者別
  - ・ 上記の男性・女性別
  - ・ 上記の年代別（20・30・40・50・60代、70歳以上）

図1 ささしまエリア全域



### 3. 分析結果

ささしまライブ（以下、対象地区）における来訪者総数は、平日1日平均 11,311 人、休日1日平均 10,817 人である。

このうち大須二丁目と三丁目（以下、大須エリア）からの来訪者は、平日 14 名、休日 6 名であった。

対象地区への来訪者の時間帯分布は平日が図 2、休日が図 3 のとおりである。平日は 8 時 30 分から 20 時までの時間帯において来訪者数が 2,000 人を超えている。休日は 14 時 30 分と 16 時 30 分の時間帯にピークがみられる。

平日における大須エリアからの来訪者は、9 時 30 分から 18 時の時間帯にみられ、9 時 30 分の 1 名を皮切りに 14 時 30 分に 7 名とピークになり、その後 6 名から 4 名へと漸減した後、18 時の 3 名で終わっている。

休日においては、10 時から 13 時 30 分の間に 6 名と 16 時から 18 時 30 分の間に 7 名となっている。

対象地区への来訪者の性別構成は、平日が男性 52.1%、女性 47.9%、休日が男性 53.6%、女性 46.4%である。

対象地区への来訪者の年代構成は、平日が表 1。休日が表 2 のとおりである。

平日・休日ともに、20 代の構成比率が最も高く、平日では 40 代が休日では 30 代がこれに次いでいる。平日の 20 代 36.2%は愛知大学の学生によるものと考えられ、休日の 20 代・30 代は映画館やショッピングモール等への来客が主体と考えられる。

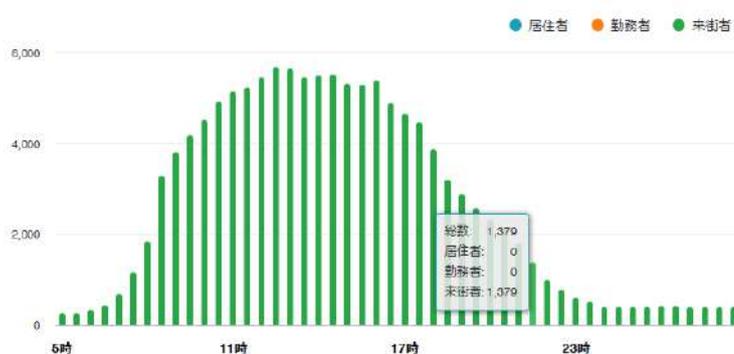


図 2 来訪者時間帯分布／平日

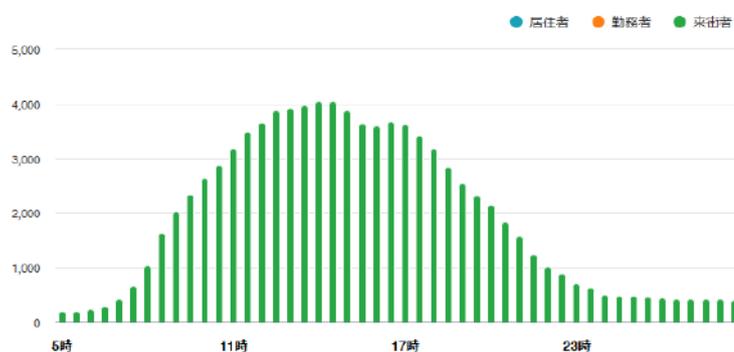


図 3 来訪者時間帯分布／休日

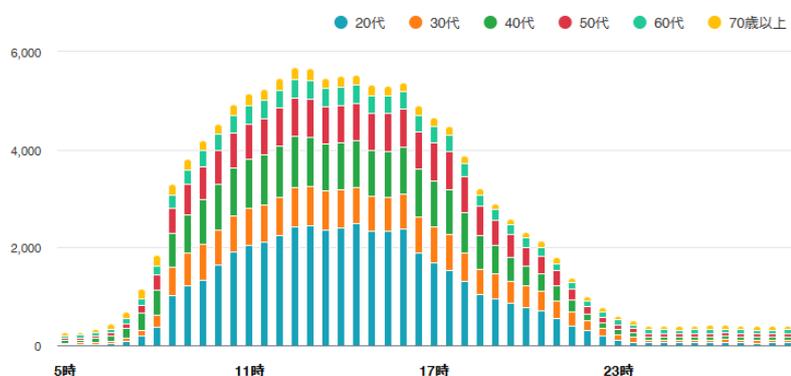


図 4 年代別時間帯分布／平日

表 1 来訪者年齢構成／平日

20代	4,096	36.2%
30代	1,944	17.2%
40代	2,124	18.8%
50代	1,664	14.7%
60代	897	7.9%
70歳以上	586	5.2%
総数	11,311	100.0%

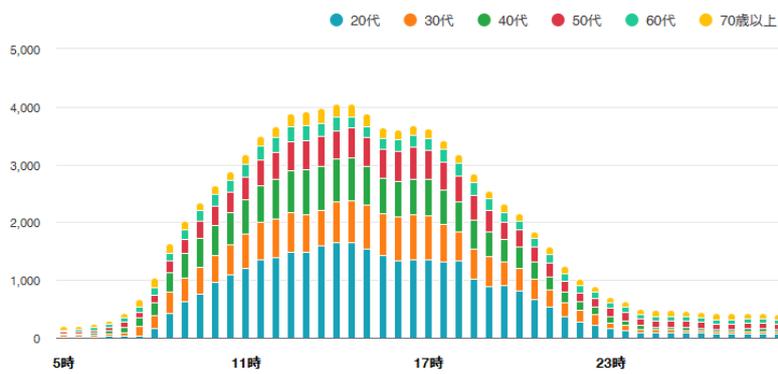


図5 年代別時間帯分布／休日

表2 来訪者年齢構成／休日

20代	3,687	34.1%
30代	2,193	20.3%
40代	1,959	18.1%
50代	1,542	14.3%
60代	770	7.1%
70歳以上	666	6.2%
総数	10,817	100.0%

#### 4. 考察

大須エリアから対象地区への来訪者は、居住地ベースでは平日14名、休日6名とわずかである。また、対象地区への来訪者の年齢構成をみると、20代と30代で過半数を占めている。大須エリアの居住者の年齢構成を詳しく見る必要があるが、大須エリアは名古屋市中心部の古くから開けた町であり、一般的に高齢化が進んでいると考えられることから、大須エリアから対象地区を訪れる居住者が少ないことは頷けると言える。

しかし、大須エリアから対象地区を訪れる来訪者は大須エリアの居住者とは限らない。大須エリアを訪れた来訪者がその前後に対象地区を訪れる可能性が考えられる。

さらに、名古屋市内の飲食のスポットや買い物スポットを回遊する買い物客の動きについて、調査する必要があると言える。

## 6. ささしままち協主催イベント来場者の特性分析

### 1. 目的

Location Analyzer (KDDI)を用いて、ささしまライブの1号公園で開催された「ささしまライブまちづくり協議会」が主催したイベント来場者の属性を分析する。

### 2. 分析内容

Location Analyzer を用いて、ささしまライブの1号公園を対象としてイベント当日に来場したと見られる来街者の属性を分析する。分析項目は次のとおりである。

- 来訪者数
- 性別年代別
- 居住者／勤務者／来街者別
- 時間帯別年代別
- 時間帯別居住者／勤務者／来街者別

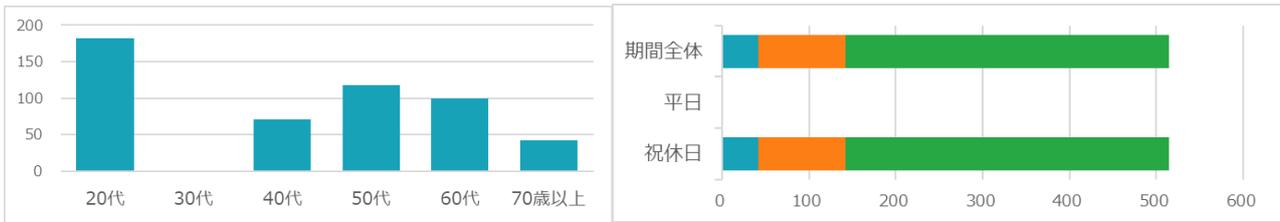
### 3. 分析結果

a) 2024年4月20日(土) なごうて! Vol.17

- 推計来訪者数 513人(ユニーク)
- 居住地構成
  - 1位が岐阜市, 3位が武豊町
  - 上位6位でほぼ9割を占めている
- 性別年代別
  - 全員が男性
  - 20代がメイン
  - 30代がない
- 居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者 42人(徒歩圏[5分以内])
  - 勤務者 100人
  - 来街者 373人

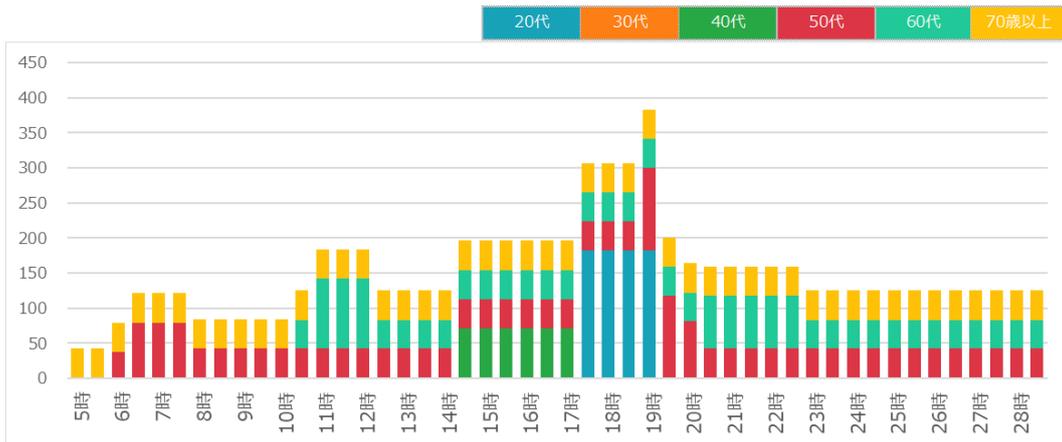


市区町村名	人数	獲得比率	距離	累計値
岐阜市	162	0.0%	32.9	35.4%
名古屋市中川区	78	0.0%	4.7	50.6%
知多郡武豊町	71	0.2%	35.2	64.5%
名古屋市北区	42	0.0%	6.5	72.7%
名古屋市中村区	42	0.0%	1.9	80.8%
名古屋市西区	39	0.0%	4.6	88.4%
日進市	34	0.0%	15.7	95.1%
名古屋市中区	25	0.0%	2.4	100.0%
その他	0	-	-	-



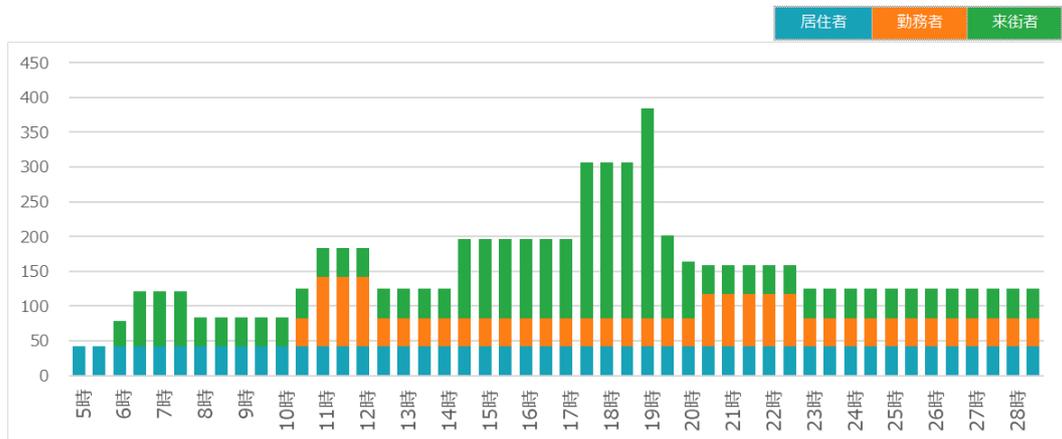
● 時間帯別年代別

- 20代は17時半から19時台に集中
- 40代は14時半から17時台に集中
- 50代以上が幅広く分布



● 時間帯別居住者/勤務者/来街者別

- 居住者が全時間帯に均等に分布
- 勤務者の分布が60代の分布に近い
- 20代が来訪した時間帯がピーク



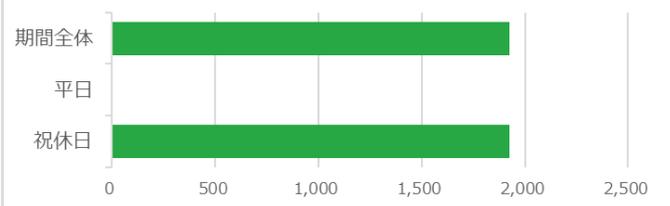
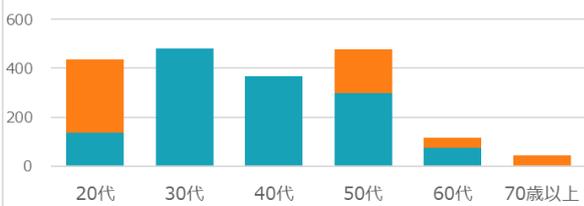
b) 2024年6月30日(土) NAGOYA GIRLS FESTIVAL 2024

- 推計来訪者数 1,910人(ユニーク)
- 居住地構成
  - 1位が越前市, 4位が一宮市(遠方からの参加者あり)
  - 市内3区(中川・港・北)で2割を占めている
- 性別年代別

- 30・40代に女性が多い
- 女性は20代がメイン
- 男性は30代以上がメイン
- 居住者/勤務者/来街者別
  - すべてが来街者（徒歩圏[5分以内]なし）

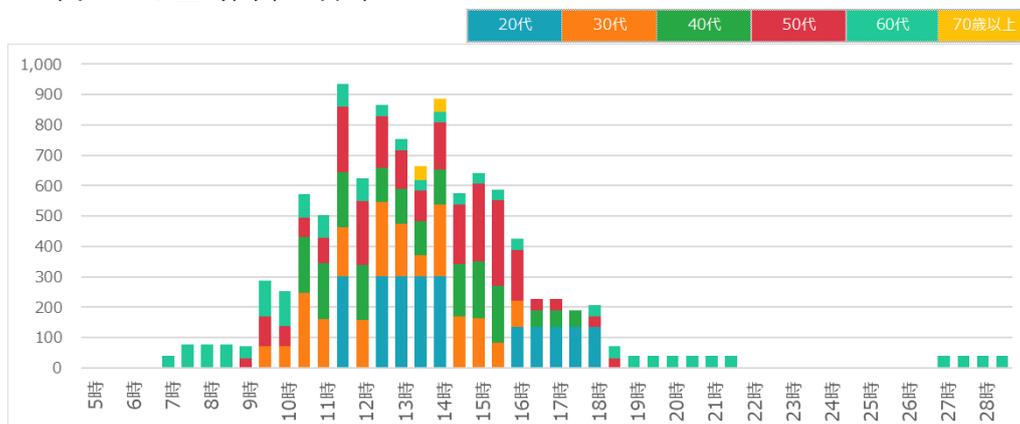


市区町村名	人数	獲得比率	距離	累計値
越前市	301	0.4%	103.0	15.7%
名古屋市中区	161	0.0%	4.7	24.1%
名古屋市港区	136	0.1%	9.3	31.3%
一宮市	114	0.0%	18.3	37.2%
岐阜市	89	0.0%	32.9	41.9%
名古屋市北区	86	0.0%	6.5	46.4%
浜松市西区	84	0.0%	83.2	50.8%
明石市	79	0.0%	185.5	54.9%
名古屋市南区	72	0.0%	8.3	58.7%
名古屋市中村区	69	0.0%	1.9	62.3%

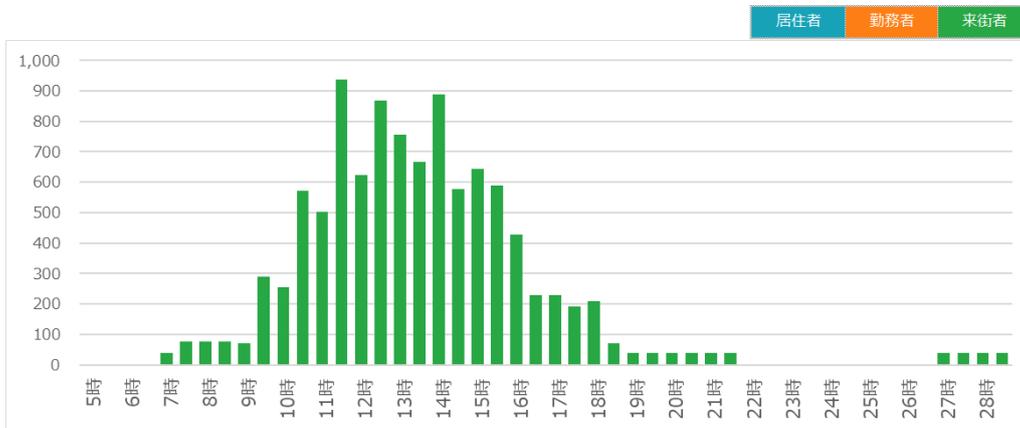


● 時間帯別年代別

- 20代は11時半から18時台に分布
- (20代女性がメインの参加者?)
- 30代は9時半から16時台に分布
- 40代は10時半から15時半台に分布
- 50代は9時台から18時半台に分布
- 60代はほぼ全時間帯に分布



- 時間帯別居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者等はなく来街者のみ
  - 9時半から増加し18時半に収束
  - 11時半、12時半、14時にピーク

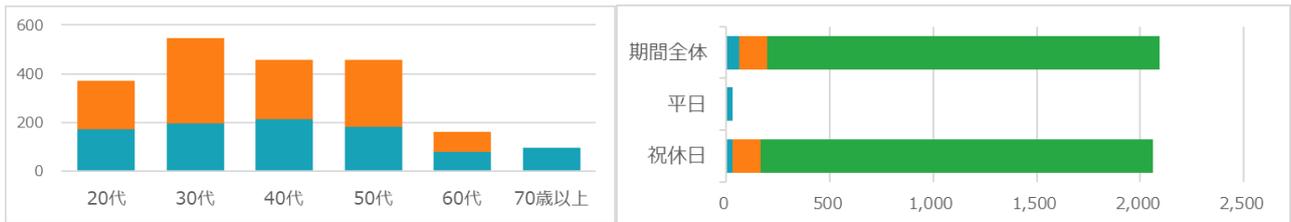


c) 2024年8月3日(土)～4日(日) MAKE IT! FES 2024 / 3X3 PREMIRE

- 推計来訪者数 2,091人(ユニーク)
- 居住地構成
  - 1位が大垣市, 3位が横浜市都筑区
  - 上位10位中でほぼ名古屋市内は5区で全体の25.2%
- 性別年代別
  - 女性の割合が55.1%
  - 30代・特に女性がメイン
  - 60代以上は12.3%
- 居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者 62人(徒歩圏[5分以内])
  - 勤務者 137人
  - 来街者 1,892人

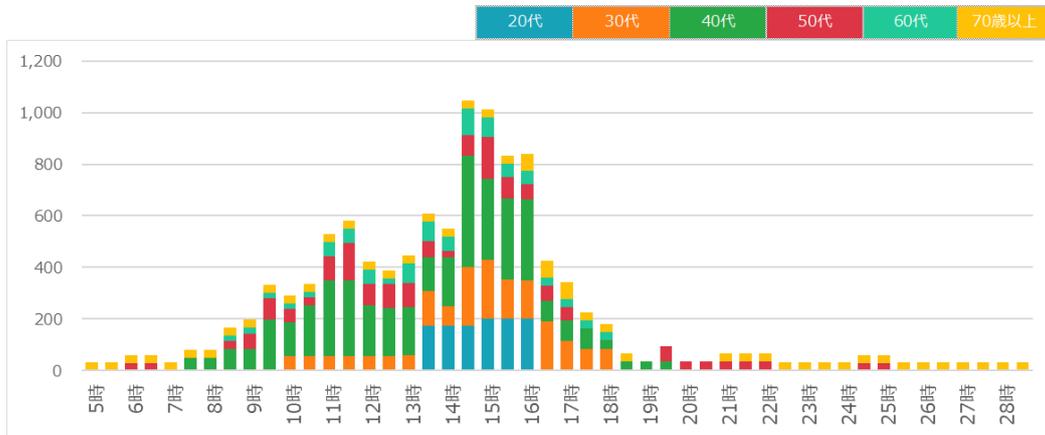


市区町村名	人数	獲得比率	距離	累計値
大垣市	237	0.1%	39.8	11.5%
名古屋市名東区	194	0.1%	11.4	21.0%
横浜市都筑区	172	0.1%	247.9	29.4%
豊川市	151	0.0%	54.9	36.7%
春日井市	147	0.0%	17.6	43.9%
御坊市	136	0.3%	211.3	50.6%
名古屋市中川区	112	0.0%	4.7	56.0%
名古屋市港区	74	0.0%	9.3	59.6%
名古屋市守山区	70	0.0%	12.6	63.1%
名古屋市中村区	66	0.0%	1.9	66.3%



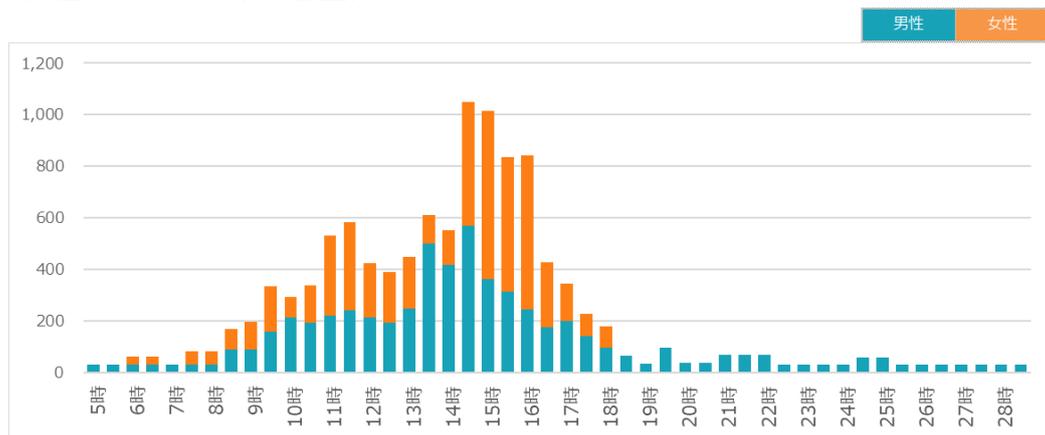
● 時間帯別年代別

- 20代は13時半から16時台に集中
- 30代は10時台から18時台に分布
- 40代は14時半から16時台がピーク



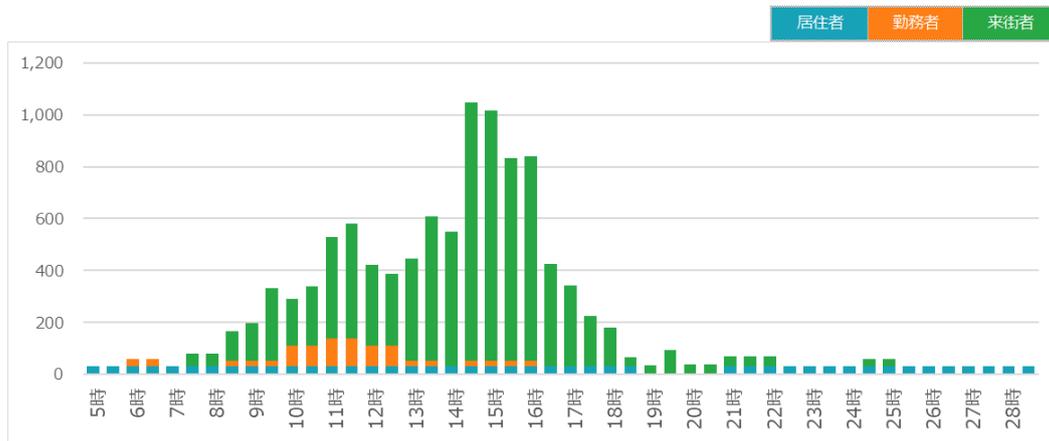
● 時間帯別性別

- 女性は11時から11時半と15時から16時台にピーク
- 女性のピークと来場者全体のピークがほぼ一致している



● 時間帯別居住者/勤務者/来街者別

- 居住者が全時間帯に均等に分布
- 居住者の分布が70代の分布に近い
- 来街者のピークは14時半から16時台
- 勤務者のピークは10時台から12時半

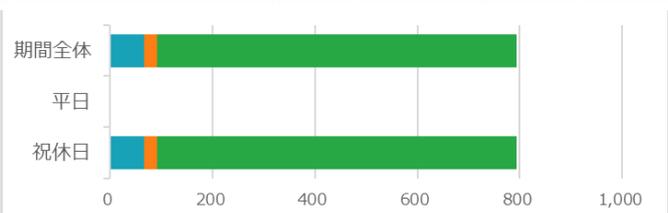
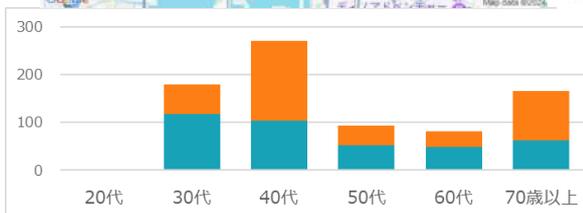


d) 2024年8月10日(土) 米野学区 夏祭り 2024

- 推計来訪者数 791人(ユニーク)
- 居住地構成
  - 1位が中村区, 2位が中川区
  - 上位2区で7割近くを占めている
- 性別年代別
  - 20代がなく40代がメイン
  - 30代・70歳以上が次ぐ
  - ファミリー層対象?
- 居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者 66人(徒歩圏[5分以内]/ERささしま)
  - 勤務者 26人
  - 来街者 701人

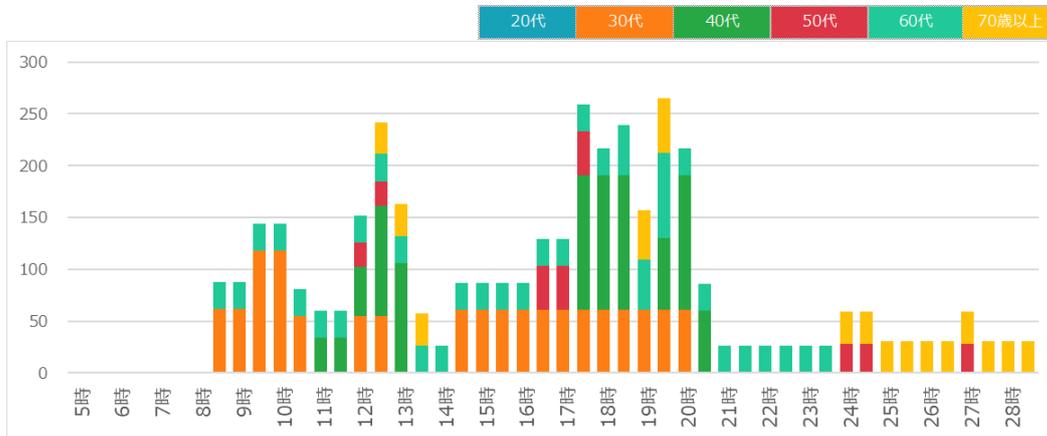


市区町村名	人数	獲得比率	距離	累計値
名古屋市中村区	304	0.2%	1.9	38.4%
名古屋市中川区	231	0.1%	4.7	67.6%
名古屋市内東区	74	0.0%	11.4	76.9%
港区	69	0.0%	264.8	85.7%
名古屋市西区	58	0.0%	4.6	93.0%
羽島市	55	0.1%	22.8	100.0%
その他	0	-	-	-



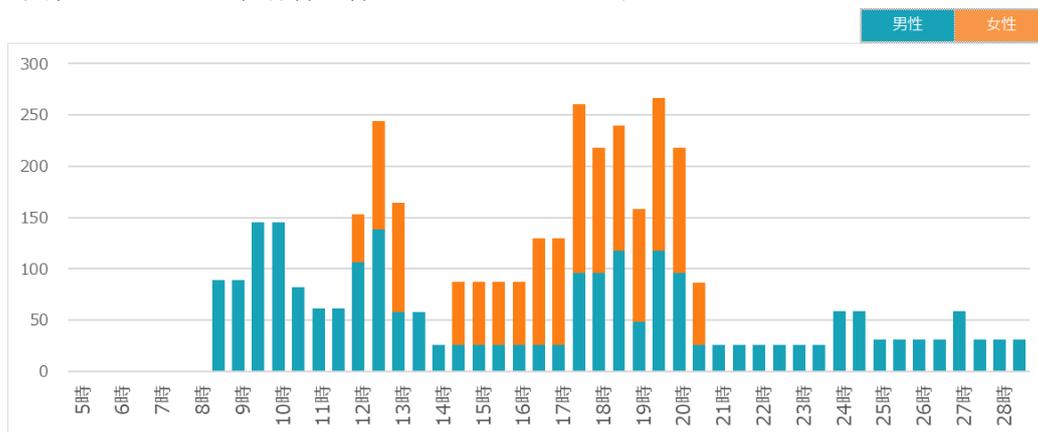
● 時間帯別年代別

- 30代は主に8時半から20時台に分布
- 40代は11時から13時, 17時半以降に分布
- 50代と70歳以上の分布はまばら
- 60代はほぼ一定数で分布



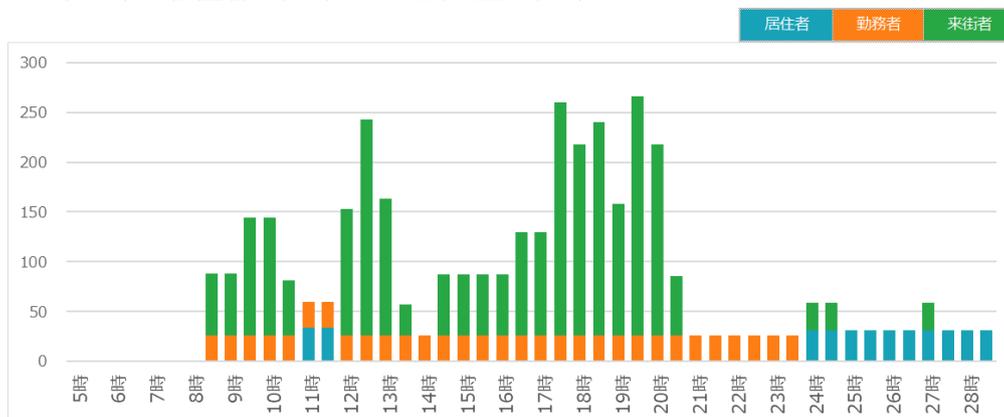
● 時間帯別性別

- 女性は12時から20時半に分布し17時半と19時半にピーク
- 女性のピークと来場者全体のピークがほぼ一致している



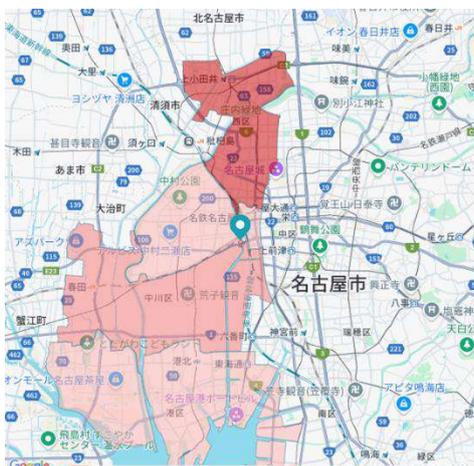
● 時間帯別居住者/勤務者/来街者別

- 勤務者が8時から23時半までほぼ一定数で分布, 60代の時間分布と近い
- 24時以降の居住者の分布は70歳以上の分布とほぼ一致



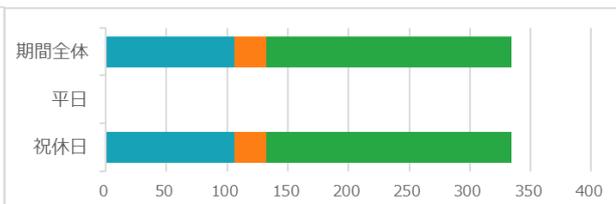
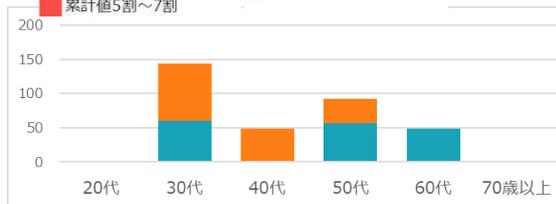
e) 2024年8月18日(日) どうぶつに優しい夏の哲学祭り

- 推計来訪者数 249人(ユニーク)
- 居住地構成
  - 1位が西区, 3位が中川区, 5位が中村区, 3区で56.2%
  - 2位に赤穂市が入っている
- 性別年代別
  - 20代がなく30代がメイン
  - 50代がこれに次ぐ
  - 40代は女性のみ
- 居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者 106人(徒歩圏[5分以内]/ER ささしま)
  - 勤務者 26人
  - 来街者 202人

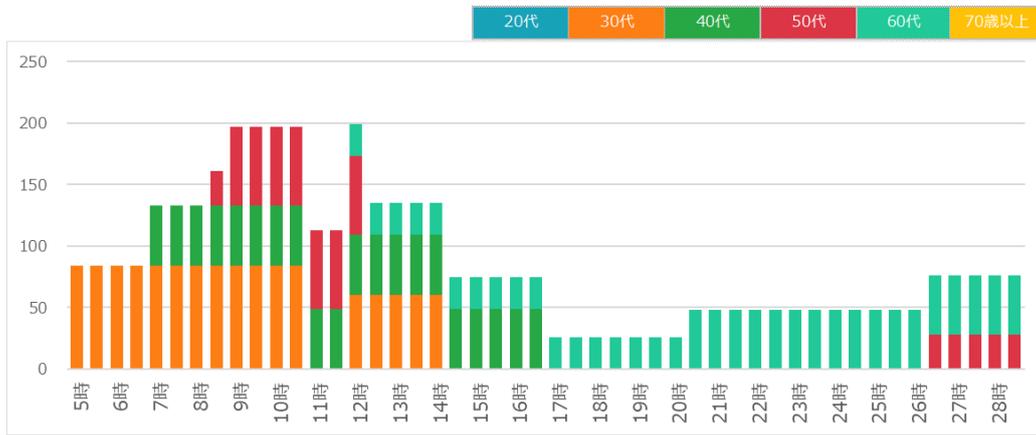


市区町村名	人数	獲得比率	距離※	累計値
名古屋市西区	64	0.0%	4.6	25.7%
赤穂市	60	0.1%	232.4	49.7%
名古屋市中川区	54	0.0%	4.7	71.4%
名古屋市港区	49	0.0%	9.3	91.1%
名古屋市中村区	22	0.0%	1.9	100.0%
その他	0	-	-	-

■ 上位~累計値3割まで  
■ 累計値3割~5割  
■ 累計値7割~9割  
■ 累計値9割~(その他除く)

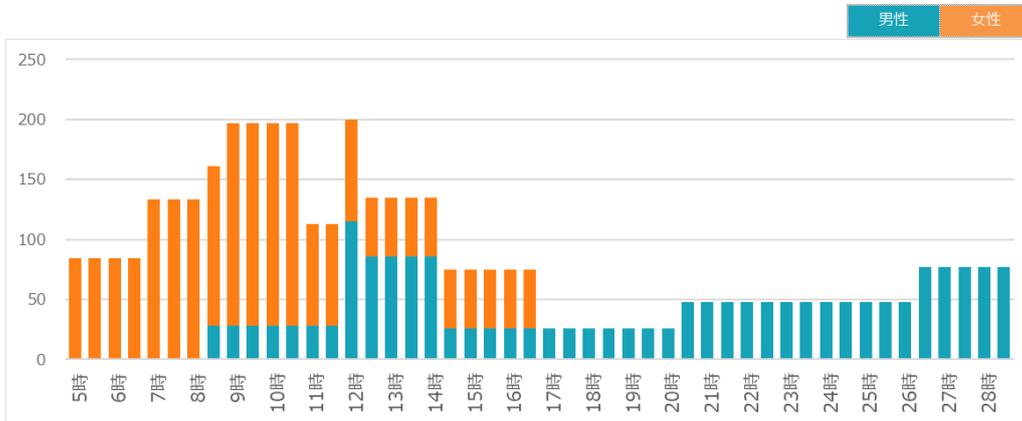


- 時間帯別年代別
  - 30代は主に5時から14時台に分布
  - 40代は7時から16時半に分布
  - 50代は8時半から12時に分布
  - 60代は12時以降に分布



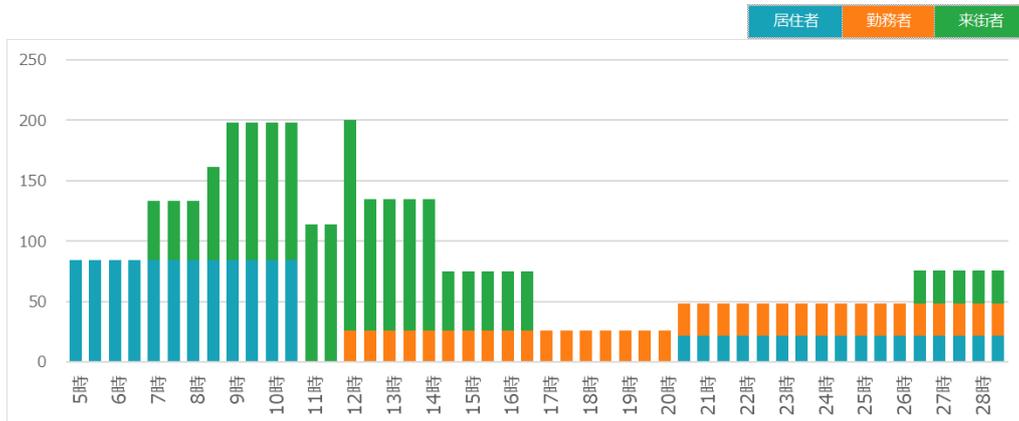
● 時間帯別性別

- 女性は5時から16時半に分布し9時から10時半にピーク
- 8時から11時半の時間帯は女性の分布が顕著
- 男性は8時半以降に分布し12時から14時にピーク



● 時間帯別居住者/勤務者/来街者別

- 居住者は11時から20時を除く時間帯に分布
- 勤務者は12時以降に分布
- 来街者は7時から16時半に分布し、12時代にピークがある



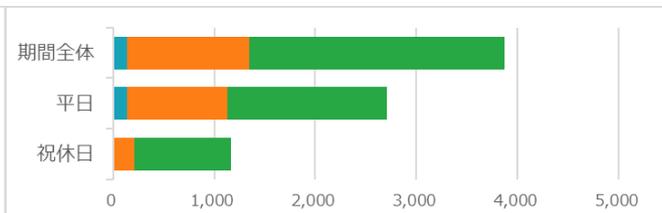
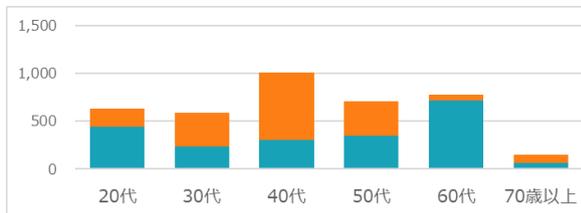
f) 2024年9月17日(日)～23日(日) オイスターズがさしまライブの公園でつくる野外劇

- 推計来訪者数 3,834人(ユニーク)
- 居住地構成

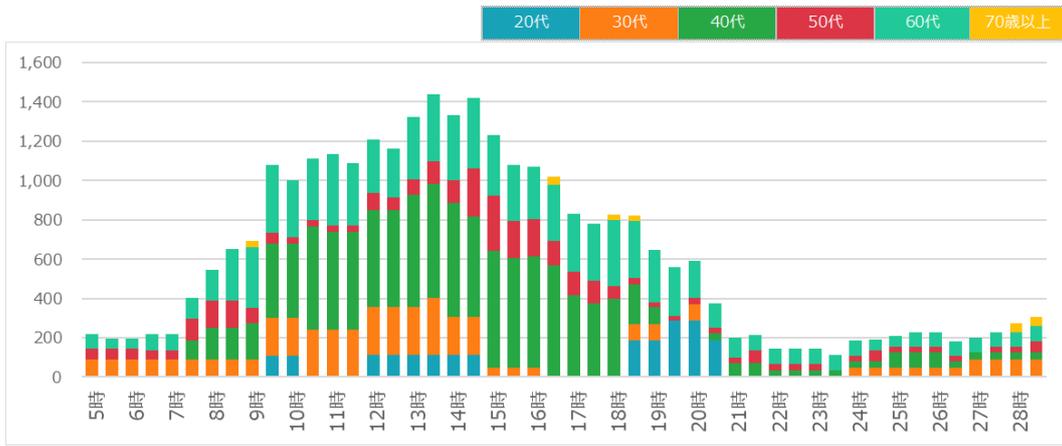
- 1位が中川区, 2位が中村区, 4位が東区, 3区で34.9%
- 3位に桑名市, 6位に大垣市が入っている
- 性別年代別
  - 40代・女性がメイン
  - 60代・男性がこれに次ぐ
- 居住者/勤務者/来街者別
  - 居住者 136人 (徒歩圏[5分以内]/ER ささしま)
  - 勤務者 1,207人
  - 来街者 2,531人



<input type="checkbox"/>	市区町村名	人数	獲得比率	距離※	累計値
<input type="checkbox"/>	名古屋市 中川区	652	0.2%	4.7	17.0%
<input type="checkbox"/>	名古屋市 中村区	470	0.3%	1.9	29.2%
<input type="checkbox"/>	桑名市	261	0.0%	21.3	36.0%
<input type="checkbox"/>	名古屋市 東区	215	0.3%	4.7	41.6%
<input type="checkbox"/>	北名古屋市	211	0.1%	9.5	47.1%
<input type="checkbox"/>	大垣市	194	0.0%	39.8	52.2%
<input type="checkbox"/>	名古屋市中区	150	0.0%	2.4	56.1%
<input type="checkbox"/>	知多郡阿久比町	131	0.1%	25.0	59.5%
<input type="checkbox"/>	日進市	117	0.0%	15.7	62.6%

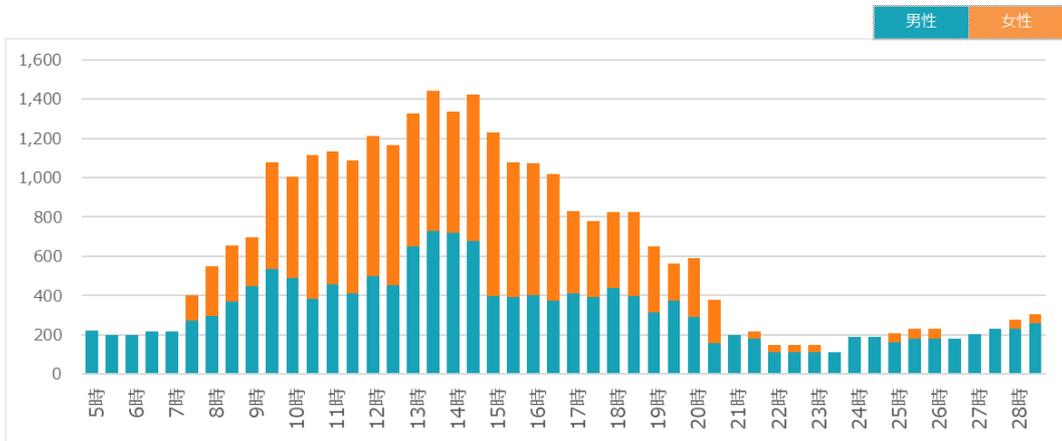


- 時間帯別年代別
  - 20代は9時~20時半にまばらに分散
  - 30代は主に9時半から14時半に分布
  - 40代は主に9時半から18時に分布
  - 50代は15時にピークがみられる
  - 60代は8時半~19時半の分布が顕著



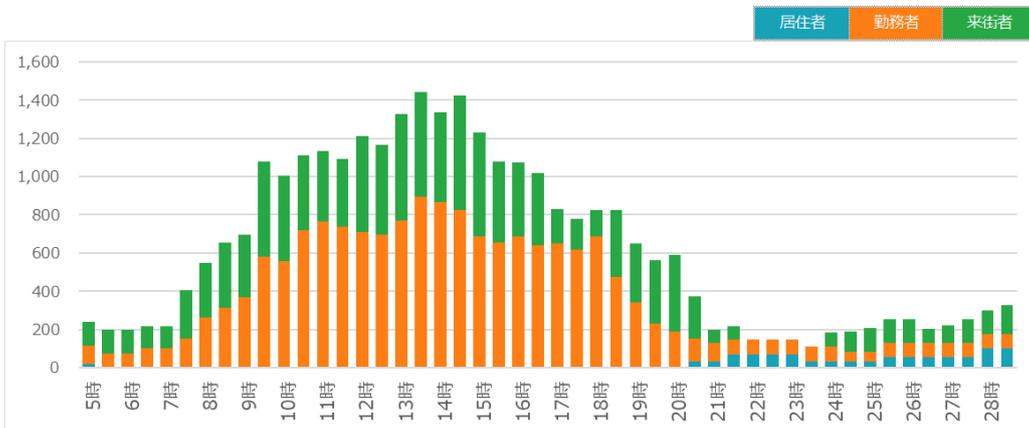
● 時間帯別性別

- 女性は7時半から20時半に主に分布
- 女性は9時から増加し15時にピークを迎え20時半にほぼ収束
- 男性は13時から14時半にピーク



● 時間帯別居住者/勤務者/来街者別

- 居住者は20時半以降の時間帯に分布
- 勤務者は13時半にピーク
- 来街者は14時半にピーク
- 9時から19時の時間帯においては、来街者よりも勤務者の滞留の方が多いという傾向にある



#### 4. 考察

来街者の属性よりささしまライブの1号公園で開催されたイベントの特性は次のように区分できると言える。

##### ① 広域参加（集客）型

<なごうて！Vol.17, NAGOYA GIRLS FESTIVAL 2024, MAKE IT! FES 2024／3X3 REMIRE,

オイスターズがささしまライブの公園でつくる野外劇>

- 参加者（ターゲット）に性別・年代別の偏りがある
- 徒歩圏5分以内の参加者（居住者）は少ない
- 名古屋駅からのアクセスは、あおなみ線もしくは徒歩と考えられる

##### ② 地域密着（集客）型

<米野学区 夏祭り 2024, どうぶつに優しい夏の哲学祭り>

- 参加者はファミリー層（夫婦と子供, 子連れの母親）主体であろう
- 徒歩圏5分以内の参加者（居住者）は多い
- 自宅からのアクセスは、徒歩・自転車もしくはあおなみ線と考えられる

来街者の属性のうち居住者と集計された来場者は、ロイヤルパークス ER ささしまの居住者であろうか。データでは居住者となっているが、実際は居住者ではないか。もしくはデータでは参加者となっているが、居住者は参加者ではないか。同様にして勤務者はイベント主催者（関係者）と考えればよいか。これらについては元データが携帯電話（モバイル）の位置情報であるため、厳密さに欠けるのではないかとと思われる。

# 7. 今後の調査の方向性

## 1. まとめ

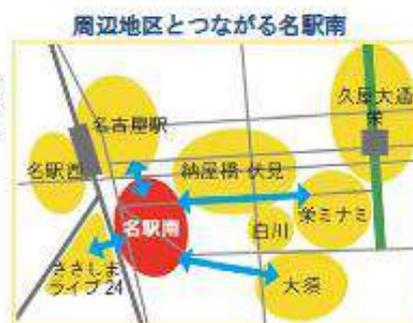
現時点では、携帯電話データのみでは「居住者」「勤務者」「参加者」の判別精度に課題があるため、補完的なデータ収集方法を導入することが望ましいが、分析結果をもとに今後の方向性についてまとめる。

ささしまライブの隣の名駅南エリアでは既に、まちづくり協議会がまちづくりビジョンをとりまとめ方向性を出している。まちづくりが先行する名駅南との連携を深めることで、ささしまライブのイベントや人の流れをより広域に展開できる可能性も考えられる。名駅南エリアは飲食店や商業施設、オフィスが点在するエリアであり、連携施策が考えられる。

### 名駅南地区の現状

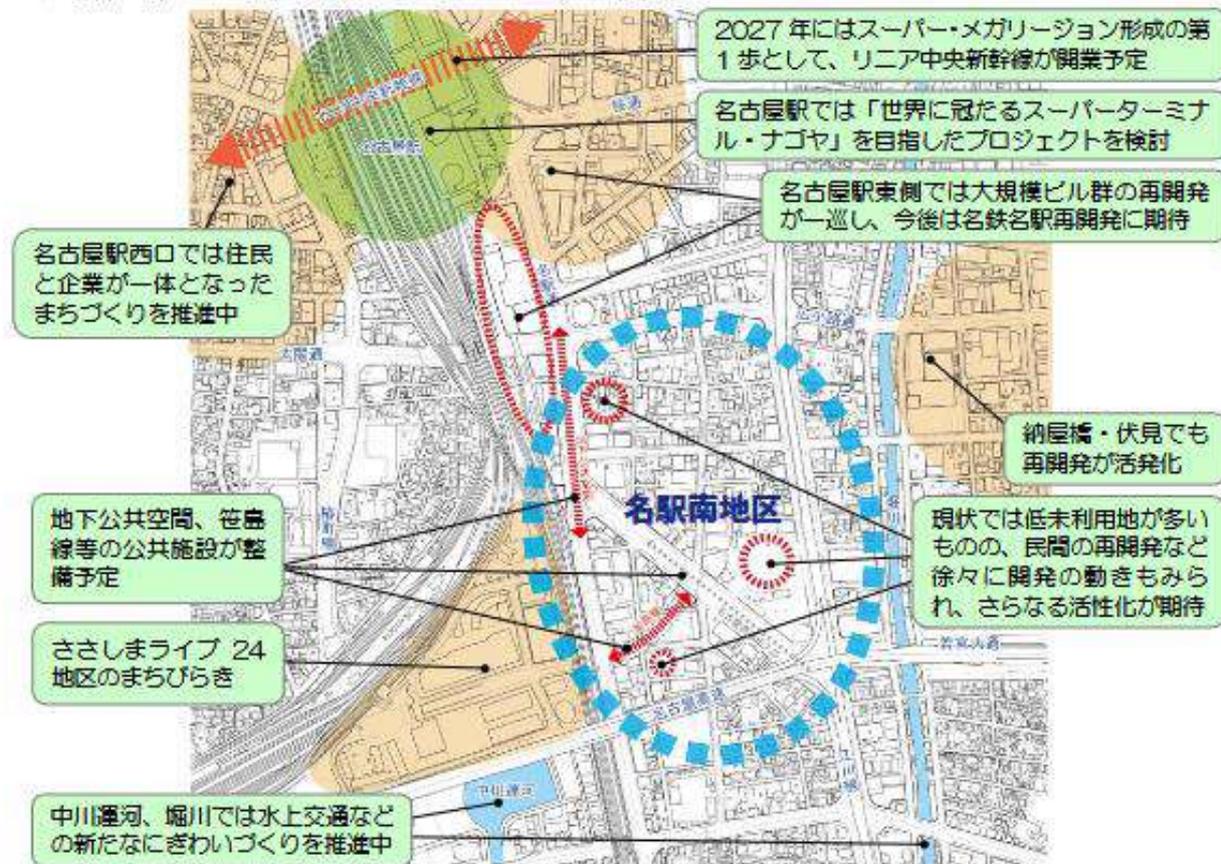
#### <魅力・ポテンシャル>

- 【立地】名古屋駅に近接し、都心の利便性を享受できる
- 【つながり】名駅、ささしまライブ24、伏見、栄、大須など特徴的な地区とつながる
- 【ネットワーク】道路ネットワークが充実し、広域からの自動車アクセスが便利
- 【水辺】中川運河や堀川など都心の貴重な水辺に近接
- 【コミュニティ】地域コミュニティによる活動や行事がしっかり続く
- 【クリエイティブ】文化芸術施設やクリエイティブ施設など特徴的な施設が立地



#### <名駅南地区のまちづくりへの期待の高まり>

- 名古屋駅をはじめ周辺地区ではまちづくりの動きが活発化



※参考平成 30 年 12 月 名駅南地区まちづくり協議会 名駅南地区まちづくりビジョン

## 2. 名駅南との連携アイデア

- ・回遊性を高める仕組みづくり

ささしまライブのイベントと連動した「スタンプラリー」や「回遊マップ」を作成し、名駅南の飲食店や商業施設との相互送客を促す。

- ・名駅南の店舗とタイアップした「イベント特典」(例：ささしまのイベント参加者に割引、名駅南の飲食店利用者にイベント招待)を設ける。

- ・合同イベントの企画

名駅南エリアの企業・商店街と協力し、ささしまライブ&名駅南エリア全体を活用したフェスを開催。

- ・交通・アクセスの改善

名駅南とささしまを結ぶ「回遊バス」や「レンタサイクルステーション」の設置。

名駅南からささしまへの徒歩ルートを分かりやすくする案内サインやプロモーション施策強化。

- ・ビッグデータを活用した連携戦略

ささしまライブと名駅南を行き来する人の動向をデータ分析し、回遊ルートの可視化や施策立案の基礎資料にする。

例えば、名駅南エリアの企業や店舗と協力し、来訪者データを共有することで、より効果的な集客施策を打ち出す。



今年度は、事業の中でささしま地区でバスと連携したイベントを実験的にした。



# まちづくりビジョンに向けて

## 1. ささしまウエルカムバスの活用促進

### <現状の課題>

分析結果より、混雑はないが、利用者が限定的で、十分な回遊性が確保されていない可能性がある。運行ルートが限定的で、名駅南エリアや他のエリアと連携しづらい。観光客やビジネス利用者に対する認知度が低く、利用促進策が必要。

### <提案>

#### ・「回遊型ルート」へのアップデート

現在のルートに加え、名駅南エリア・大須・納屋橋方面と連携した回遊ルートを試験運行。例えば、「名古屋駅 → ささしまライブ → 名駅南エリア → 大須 → ささしまライブ」のような循環バスにすると、地域全体の回遊が生まれる。ささしまウエルカムバス×イベントのコラボ特定イベント時に「期間限定のデザインラッピングバス」を運行し、イベント来場者の利用を促す。バスの車内でイベント情報を発信し、周遊を促進。

#### ・名古屋駅での誘導強化

ささしまウエルカムバスの乗り場がわかりづらい可能性があるため、デジタルサイネージや案内表示を増やし、より多くの人に利用を促す。

名駅南のエリアに近い出口（例えば太閤通口方面）にも案内を設置し、利用者の認知度を向上させる。

## 2. あおなみ線の活用促進

### <現状の課題>

ささしまライブ駅があるにもかかわらず、イベント時でもあおなみ線の利用率が低い。名古屋駅からのアクセス手段として認知されておらず、多くの人が「徒歩」で来場している。

イベント・ビジネス利用者に向けた利便性のPRが不足している。

### <提案>

#### 駅周辺のサイン・案内の強化

名古屋駅構内で、「ささしまへはあおなみ線が便利！」という誘導サインを強化。

ささしまライブ駅周辺にも「徒歩 vs. あおなみ線の比較」を示す案内を設置し、利便性をアピール。

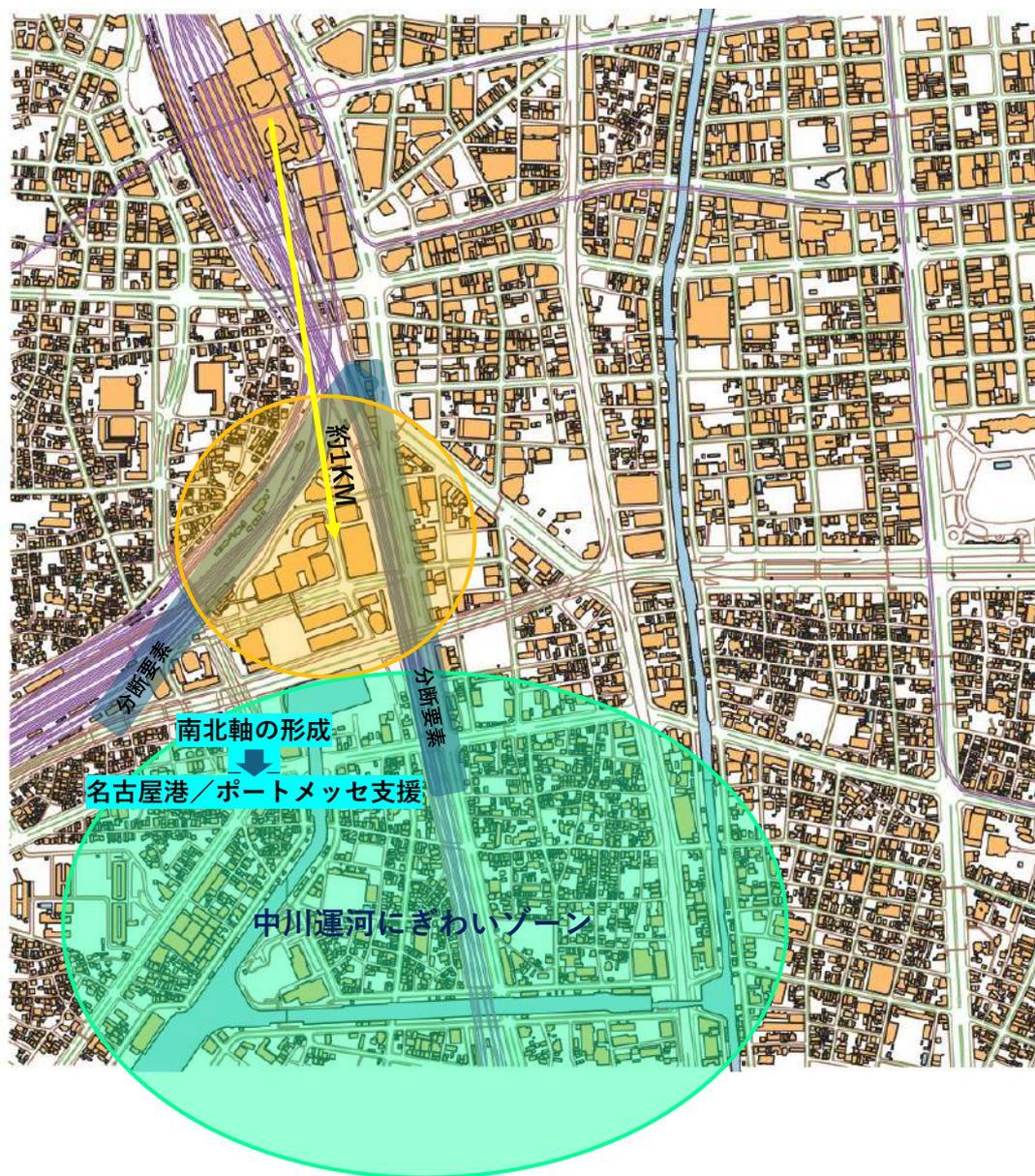
#### 名古屋駅の乗り換え動線の改善

あおなみ線の改札が名古屋駅のやや奥にあるため、利用者がアクセスしやすいようにわかりやすいナビゲーションを提供。

案内掲示や駅スタッフによるプロモーション活動の強化。

### 3. 水辺との連携

名古屋駅からささしま、中川運河までの「水辺の回遊性」を高める都市デザインの実現。  
ささしまを「風と水の都市エンターテイメント拠点」に位置づけ、観光・地域住民の両方にとって魅力的なエリアへ発展させるなど。



目標：「ささしまライブ」と「中川運河」を都市と水辺が融合する回遊エリアとして発展させる  
方向性：「アクセスの向上・既存交通の最大活用・水辺イベント、まちづくりとの連携」